

生活習慣病センターだより

☆「透析と災害」☆

2024年8月発行

自然災害はいつどこで起きるかわかりません。1995年に阪神・淡路大震災、2004年新潟中越地震、2011年東日本大震災、2016年熊本地震、2024年能登半島地震が発生しています。近い将来、南海トラフ地震、首都直下地震が予想されます。透析治療は水や電気が不可欠であり、1人当たり1回の血液透析に約120Lの水が必要です。

ライフライン障害が起こると、治療が困難となりますが、血液透析は継続して治療を受ける必要があり、他施設や他県での治療が必要となります。

平時から、自施設内の災害対策の確立、他施設との連携、災害時に必要となる手続きなどの備えを行いましょう。

行政支援や透析施設間での支援などを被災施設につなぐシステムとして、災害情報ネットワーク、JHAT、兵庫県独自のメーリングリストがあります。



	透析不能施設(一時的含む)	他の施設への移動患者
阪神・淡路大震災	66 施設	2,941 人
東日本大震災	315 施設	10,906 人
熊本地震	30 施設	2,804 人
能登半島地震	7 施設	267 人

●災害時情報ネットワークシステム

震度6以上の地震発生時、または災害救助法が適応された場合のネットワークです。



災害情報送信をクリックし、各項目を入力し登録します。日本透析医学会の会員施設だけでなく、非会員も入力可能です。

毎年9月1日には、地域における災害対策の拡充及び地域情報ネットワーク・地域情報システムの周知を目的とした日本透析医学会全国災害情報伝達訓練が行われています。

●日本災害時透析医療協働支援チーム(JHAT)

JHATとは透析医療を継続するために組織された医療支援チームです。

JHATの機能・任務:①先遣隊による現地調査②災害時の医療従事者を支えるため医療支援ボランティアの派遣(透析従事経験5年以上の隊員研修を受けた看護師・臨床工学技士の派遣)③日常生活のための支援物資供給

【支援依頼方法】

- ◆ JHAT公式サイト(<https://jhat.jp/>)より申込み
- ◆ 各施設からの支援に対する費用は無料
- ◆ 宿泊、食事などの準備も不要

●メーリングリスト

災害時に地域の被災・支援状況をまとめ、域外や行政に対して情報の発信・支援要請を行うことを目的に、兵庫県透析災害対策合同委員会により保健所医療圏域ごとに透析施設のメーリングリストが作成されています。



JHAT 支援物資センター開設



JHAT 隊員派遣